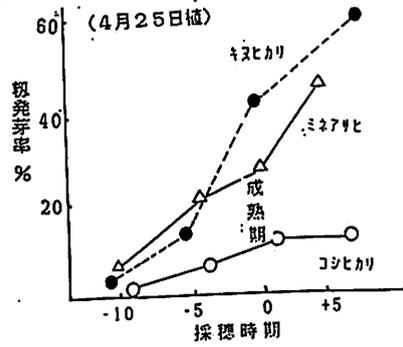


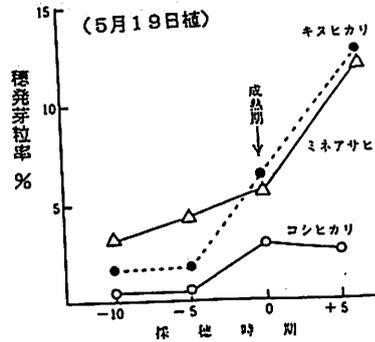
(普通作物-稲-品種)

課題名	4 水稻良食味品種の育成	分類	①
	(2) 極早生良食味品種の穂発芽性		
試験研究年次	63 ~ 1年 (完了)		
<p>I 目的 極早生良食味品種コシヒカリ、ミネアサヒ、キヌヒカリについて、移植時期、採穂時期、倒伏程度が異なる場合の穂発芽の発生程度を明かにし、良質米生産のための資料とする。</p>			
<p>II 試験方法</p> <p>[試験1] 穂発芽性の品種間差</p> <p>1 試験実施場所 農産研究所、豊前分場 2 供試品種 コシヒカリ、ミネアサヒ、キヌヒカリ 3 移植時期 5月19日、6月5日、6月20日 (農産研究所)、豊前分場は4月25日のみ。 4 検定法 成熟前10日~成熟後5日まで2~3日おきに採取した穂を、室内で容器に置床し28℃の定温器に入れた。置床後7日に穂発芽粒率を1区20穂調査。1区制。豊前分場は採取した穂を、容器に置床し30℃の定温器に入れ、置床後5日に1区10穂調査。</p> <p>5 その他 各移植時期の標準栽培法</p> <p>[試験2] 移植時期の早晚、倒伏程度と穂発芽の発生</p> <p>1 試験実施場所 豊前分場 2 供試品種 コシヒカリ、ミネアサヒ、キヌヒカリ 3 移植時期 4月25日、6月20日 4 検定法 各移植時期の成熟期に刈り取った穂を、脱粒、粃摺り後玄米の状態です穂発芽粒を判別した。ここでは、ハト胸状に達したものを発芽粒とした。 また、倒伏処理は成熟前10日に強制的に挫折倒伏させ、上記と同じ方法で調査した。</p>			
<p>III 主要成果の概要</p> <p>1 穂発芽性の品種間差</p> <p>(1) コシヒカリに比べて、ミネアサヒとキヌヒカリは各移植時期とも穂発芽粒率が高く、穂発芽性はやや易と判断された。</p> <p>(2) ミネアサヒとキヌヒカリの比較では、ミネアサヒに比べてキヌヒカリは成熟期前の穂発芽粒率は低いが、成熟期以降過熟になると高くなる傾向がみられた。 これは、ミネアサヒに比べてキヌヒカリは、1穂内の開花期間が短く、熟度のムラが少ないためと推察される。</p> <p>2 移植時期の早晚、倒伏程度と穂発芽の発生</p> <p>(1) 水稻立毛中における穂発芽の発生は、各品種とも6月20日植の普通期栽培より4月25日植の早期栽培において多かった。</p> <p>(2) コシヒカリは倒伏の有無にかかわらず穂発芽の発生は全くみられなかった。しかし、ミネアサヒ、キヌヒカリはいずれも倒伏程度が大きくなるに従い、穂発芽の発生が多くなった。</p>			

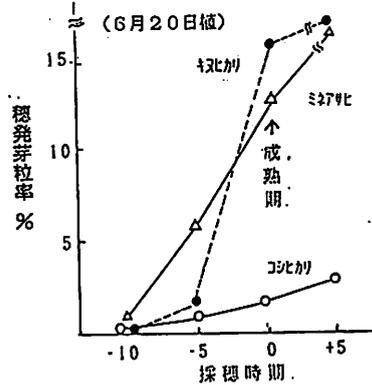
IV 主要成果の具体的データ



第1図 早期栽培における採穂時期と穂発芽率 (1年 豊前分場)



第2図 早植における採穂時期と穂発芽率 (1年 農産研究所)



第3図 標準植における採穂時期と穂発芽率 (1年 農産研究所)

第1表 移植時期と穂発芽の発生 (63年、豊前分場)

移植時期	品 種	穂発芽率 (%)
4月25日	コシヒカリ	0
	ミネアサヒ	3.1
	キヌヒカリ	1.6
6月20日	コシヒカリ	0
	ミネアサヒ	0.7
	キヌヒカリ	0.3

第2表 倒伏程度と穂発芽 (1年、豊前分場)

倒伏程度	穂 発 芽 率 (%)		
	コシヒカリ	ミネアサヒ	キヌヒカリ
無	0	0	0
少	0	1.5	1.0
甚	0	3.5	3.0

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 県農政部発行「良質米生産技術指針」の品種特性の項に追記する。
- 2 ミネアサヒ、キヌヒカリとも穂発芽軽減のためには適期刈取りに努めるとともに、栽培面からは倒伏させないような肥培管理が重要である。

VI 今後の研究上の問題点

極早生良食味で、栽培特性の優れた穂発芽難品種の育成

VII 資料名

- 1 63~1年度 福岡県農業総合試験場 豊前分場 普通作物研究室 夏作試験成績簿
- 2 1年度 福岡県農業総合試験場 農産研究所 水稲育種研究室 水稲育種試験成績簿
- 3 日本作物学会九州支部会報第57号、14~16 (2年)